



263号  
2021/5

日中文化交流市民サークル'わんりい'  
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方  
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:t\_taizan@yahoo.co.jp



台北の攀枝花並木：台北へ行ったとき、並木で華やかに咲いている花があった。花の名前を訊ねたら、「キワタ（木綿）」とのこと。なんだか納得がいかなかったがこれが中国名「攀枝花(pānzhīhuā)」でした。中国四川省に「攀枝花市」という都市があって変わった名前だなあ、と思っていましたがこの木が名前の由来だったのですね。  
(台湾台北市 2014年4月撮影 佐々木健之)

‘わんりい’ 2021年5月号の目次は20ページにあります



今月のお話は、聞いたことがおありでしょう。

・>・>・>・>・>・>・

昔、一人の老人が家で沢山のサルを飼っていました。老人は、毎日サルに栗を与えていました。ところがだんだん栗が少なくなってきたので、仕方なく、毎日与える数を決めることにしました。

老人は、サルたちに向かって、上に向けて三本の指を出し、その後で指を下に向けて4本出しました。サルたちに、毎朝3個の栗を与え、夕方4個の栗を与えると約束したのです。

しかし、サルたちは喜ばず、大声で鳴きながらその決定に抗議しました。それで老人は上に向けて指を4本出し、その後で、指を下に向けて3本出しました。毎日朝4個、夕方3個の栗を与えると約束を変えたのです。サルたちは、朝の数が4個になったので、貰う量が増えたと思って、満足の叫び声をあげるのです。

・>・>・>・>・>・>・

**言葉の意味:** 賢い人は手段を用いて物事を動かし、愚かな人は直感で物事を判断するという譬えで、後には物事が変わりやすいことを表す言葉として使われるようになる。

**使い方:** 彼は決心がついていない。朝三暮四だ。

・>・>・>・>・>・>・

このお話は、戦国時代の「<sup>そうじ</sup>荘子」に出てくるお話です。同じ話が、詳しくは分かっていない<sup>れつぎょこう</sup>列御寇という人の「<sup>れつし</sup>列子」にも出てきます。道家の思想に係わるお話で、目先の変化に捉われて、本質が変わらないことに気が付かないのは愚かなことであり、賢い人は見かけを変えて、人々を思う方向に導くことができる。と同時に、人々には、表面の事象に捉われず、本質を見極めなければならないと教えているのです。

実は、私がこの四字成語を初めて聞いたのは北京で、中国人の友人からでした。その時は、「言うことがころころ変わる、当てにならない」という意味だと教えられました。この本でも、その意味も教えています。挿絵を描いてくださる満柏画伯も、「目標が定まらない」、或いは「変化が激しい」という時に使うと教えてくださいました。

後になって、上記のような、目先に捉われて本質が見ぬげない、或いは言い方を変えて、本質が変わらないことを誤魔化すといった意味があることを知りました。一つの四字成語に、二つ、或いは三つの微妙に違う意味があるのですね。

この言葉の出典が「<sup>しやう</sup>荘子」「<sup>れつ</sup>列子」と云われることから考えて、物の本質にかかわるお話が本来の意味のようですが、四字成語の意味も、時代と共に追加されたり、変化したりするのですね。

この四字成語を今回ご紹介するためにネットで確認していて、おもしろい記事を見つけました。

2010年に、当時の首相鳩山由紀夫氏が、予算委員会の質疑の中で、「朝三暮四」という言葉を知っているかと訊かれ、「物事がころころ変わる、信用できない、ということだ」と答えると、質問者は、「それは『朝令暮改』のこと、『朝三暮四』は〜」と言って、「本質が変わらないのに、目先の変化で誤魔化すことだ」とレクチャーをしました。そして、新聞も「一国の首相なのに常識がない」と鳩山氏を揶揄したそうです。

状況が分からないのでめったなことは言えませんが、少なくとも「常識がない」と一方的に非難した新聞は、現在中国で言われている解釈を知らなかったのですから、あまり褒められたものではありませんね。



挿絵：満柏画伯

# 項羽の『垓下の歌』

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

秦の始皇帝の死後、再び訪れた戦乱の中を最後に勝ち残ったのは、楚の国の貴族出身の項羽と、沛（今の江蘇省徐州市沛県）の平民から勝ち上がった劉邦でした。

項羽はその優れた武勇と強大な兵力で、全土制覇まであと一歩と迫りますが、自らの武勇におぼれて部下の信頼を失い、離反する部将が相次いだため、それまで劣勢であった劉邦の軍に垓下の地で包囲されてしまいます。劉邦は包囲した自軍の兵士たちに楚の国の歌を歌わせました。それを聞いた項羽は故国の楚の地まで劉邦の手に落ちたと錯覚し、死を覚悟します。これが所謂「四面楚歌」の由来です。項羽は最後の武勇を揮った末に自刃して果てました。そのとき項羽が残した辞世の歌が『垓下の歌』です。この歌は司馬遷の『史記』項羽本紀に採録されて後世に広く伝えられました。

[原詩]

gāi xià gē xiàng yǔ  
垓 下 歌 項 羽

lì bá shān xī qì gài shì  
力 拔 山 兮 气 盖 世

shí bú lì xī zhuī bù shì  
时 不 利 兮 骓 不 逝

zhuī bù shì xī kě nài hé  
骓 不 逝 兮 可 奈 何

yú xī yú xī nài ruò hé  
虞 兮 虞 兮 奈 若 何

[訓読]

ちからやま ぬ き よ おお  
力山を抜き、気は世を蓋う

とき り すい ゆ  
時に利あらず、驓逝かず

すい ゆ い かん  
驓逝かず、奈何すべき

ぐ ぐ なんじ い かん  
虞や虞や若を奈何せん

\*垓下=今の安徽省宿州市靈璧県。\*兮=語気を表わす助辞。屈原の『楚辞』をはじめ上古代、楚の地方の歌謡に多く使われた。日本漢字音は「けい」。\*驓=あし毛の馬。項羽の愛馬の名。\*逝=行く。進む。\*可奈何=いかにすべきか。「奈何」は「如何」に同じ。\*虞=項羽の愛した女性。虞はその女性の名または姓。虞姫、虞美人などと呼ばれる。\*若=二人称代名詞。「なんじ」と読む。「汝」に同じ。「奈何何」は「若を奈何せん」と読む。

[和訳] 山をも抜かんこの力、  
世をも蓋わんこの気概。  
されど時の利我に無く、  
進むすべ無し我が愛馬。  
進むすべ無し我が愛馬、  
そも行く末を如何にせん。  
あわれ愛しき虞美人よ、  
さても汝をば如何にせん。

虞姫について『史記』では詳細な記載がありませんが、後世、話に尾ひれがついて、悲劇のヒロインとして広く語り伝えられるようになりました。京劇の演目として有名な『霸王別姫』もその一つです。また、『史記』には項羽に続いて虞姫がこれに唱和したことが書かれていますが、歌の内容については記載がありません。後世、虞姫の返歌として以下の詩が伝えられています。

[原詩]

hè dà wáng gē yú jī  
和 大 王 歌 虞 姬

hàn bīng yǐ lüè dì sì fāng chǔ gē shēng  
汉 兵 已 略 地 四 方 楚 歌 声

dà wáng yì qì jìn jiàn qiè hé liáo shēng  
大 王 意 气 尽 贱 妾 何 聊 生

[訓読] かんへいすて りやく  
漢兵已に地を略し  
し ほう  
四方楚歌の声  
い き つ  
大王の意気尽きたれば  
せんしやう りやうせい  
贱妾何ぞ聊生せん

\*和=唱和する。この場合第4声に読む。\*大王=項羽を指す。京劇では dài wáng と発音している。\*漢兵=漢軍。劉邦の軍隊。\*略=奪う。\*贱妾=女性の卑称。虞姫自身のこと。\*聊生=生きのびる。

[和訳]

漢軍すでに地を奪い  
四方に湧き立つ楚歌の声  
大王の意気尽きたれば  
いかでこの身を永らえん

今回は范仲淹(989~1052)の魚家傲の詞「秋思」という作品でした。范仲淹は北宋、江蘇の人です。字は希文。諡は文正。文正公と呼ばれています。詩人としてはさほど有名ではありませんが、文章家としては歐陽脩と並んで北宋初期を代表する人物です。特に後樂園の由来となった『岳陽樓記』の「先憂後樂」は日本でも人口に膾炙しています。2歳で父親を亡くし、厳しい環境の中で苦学し、科挙に合格して官僚になったものの、時の宰相呂夷簡一派の政治を批判し、争いを引き起こしたので、しばしば左遷されています。しかし、彼は「義」の人物であり、宋代の士風をつくりだした名臣と仰がれています。

さて、その当時、チベット系タングート族出身の李元昊という人物が、現在の甘粛省寧夏回族自治区に西夏(国号は大夏。中国からは西夏と呼ばれる)という国を建てていました。西夏王国は西夏文字という漢字に似た固有の文字を持ち、仏教を信じ、中国文化を重んじた文化程度の高い国だったようです。1038年に建国し、1227年にモンゴル帝国のチンギスハンに滅ぼされるのですが、范仲淹が従軍した頃は最盛期で、たびたび宋への侵攻を繰り返していました。

左遷によって中央から遠ざけられていた范仲淹は、司令官として西北辺境に数年駐屯しました。この『秋思』はその時の作品です。想像で描いた辺塞風物詩ではなく、実体験を元に作られています。

yú jiā ào qiū sī fàn zhōng yān  
漁家傲 秋思 范仲淹

sāi xià qiū lái fēng jǐng yì  
塞下秋来风景异,  
héng yáng yàn qù wú liú yì  
衡阳雁去无留意。  
sì miàn biān shēng lián jiǎo qǐ qiānzhàng lǐ  
四面边声连角起, 千嶂里,  
cháng yān luò rì gū chéng bì  
长烟落日孤城闭。  
zhuó jiǔ yī bēi jiā wàn lǐ  
浊酒一杯家万里,  
yān rán wèi lè guī wú jì  
燕然未勒归无计。  
qiāng guǎn yōu yōu shuāng mǎn dì rén bù mèi  
羌管悠悠霜满地, 人不寐,  
jiāng jūn bái fà zhēng fū lèi  
将军白发征夫泪。

では、内容を見てみましょう。

ぎよ か ごう しゅう し  
〔漁家傲〕 秋思  
はんちゆうえん  
范仲淹

さい か あききた ふうけい こ  
塞下秋来たりて風景異なり  
こうよう がん さ りゅう い な  
衡陽雁去りて留意無し

「漁家傲」は詞牌名すなわち楽曲の名称であって、作品の内容とは関係ありません。この作品には内容を表わす題名が別についていて、それが「秋思」です。

「塞下」とは砦の周辺ということです。「風景異なり」とは、范仲淹が南方出身なので、荒涼とした砂漠地帯の風景は故郷とは異なるとも解釈できますが、秋がやって来て風景が一変するという意味にも取れます。「秋思」という作品名と、2句目の「衡陽雁去りて〜」から見て、後者の解釈の方が理にかなっているかもしれせん。衡陽は地名で、今の湖南省の中南部に位置しています。冬になったら北から渡鳥の雁がやって来ますが、その南限になるのがこの衡陽です。雁たちは惜しげもなくこの地を見棄てて衡陽の方角に向かって飛び去ってしまった。つまり、南部から派遣されてきた軍隊だけが北方の荒野に寂しく取り残された、ということです。何となくもの悲しい出だしですね。

し めん へんせいかく つら お  
四面の辺声角を連ねて起こり、  
せんしやう うち  
千嶂の裡  
ちやうえん らくじつ こじやうとざ  
長煙落日孤城閉さる

「辺声」とは辺境の戦場に起る音、「角」とは角笛、合図のラッパのことです。夕暮れ時になると、帰營の合図が戦場一帯に相次いで鳴り響く。「嶂」とは山や丘を表し「千嶂の裡」で、山や丘の間に陣地を構えている様子が伺えます。「長煙」は夕食の煙か。黄河の近くですから、川から立上る夕靄という解釈もできそうです。「長煙落日」は夕方の風景を表し、「孤城閉さる」とは、夜に砦の門が閉まる、駐屯軍の一日の終わりの情景が目に見え浮かびます。

だくしゅ いっぱいえばんり  
濁酒一杯家万里

えんぜんいま ろく すべ  
燕然未だ勅せず帰るに計無し

濁酒を一杯飲むたびに万里の彼方の家族のことが思  
い出される。「濁酒」とは濁り酒、ドロクのことです。  
兵士も指揮官も実際の戦場ではこういった粗末な酒を  
飲んでいたのでしょう。空想で作られた「葡萄の美酒、  
夜光の杯」などと違って、こちらの方により現実感があ  
ります。燕然えんぜんとは今のモンゴルにあった古い地名です  
が、後漢の將軍竇憲とうけんが、匈奴との戦いに勝利した証とし  
て、燕然山えんぜんさんの石に自分の功績を刻ませたという故事から、  
「北方辺地の戦場」が連想されます。つまり、北方  
の戦場において、遠く離れた家族のことを気にかけてい  
るけれども、まだ戦いに完全に勝利していないので、帰  
ることができない、ということです。「勅」とは石に文  
字を刻むこと。

きょうかん ゆう ゆう しも ち み  
羌管悠々として霜地に満つ

ひと い  
人寐ねず

しょうぐん はくはつせい ふ なみだ  
將軍は白髪征夫は涙

「羌管」は「羌笛」ともいいます。もともと羌族の吹  
く笛のことでしたが、後に広く北方異民族の笛のこ  
とを羌笛または羌管というようになりました。中国の古  
典世界では西北地域の荒涼とした物悲しい雰囲気を表  
わすキーワードとして多く使われます。

遠くの方から羌笛の音が聞こえてきて、霜が地面を  
覆っていく。兵士たちは横になってもその音を聴  
くと、寂しさが胸に迫って眠ることができない。

將軍は范仲淹自身も含む指揮官たちで、征夫は兵士  
のことです。指揮官も部下の兵士たちも白髪が増え、涙  
にくれる。

正に戦場の悲哀です。映像が浮かんできて、読む者の  
胸を締め付けるような感情に陥ります。実際に体験し  
ているだけに真に迫るものがありますね。最近のアメ  
リカの大統領就任式で、居並ぶ州兵を見て、日本人とし  
ては珍しく大群の兵士というのを目にしました。しか  
し、最新の装備を身に着けた兵士に比べ、この時代の駐  
屯軍といえ、装備も食料も駐屯環境もひどいものだ  
ったでしょう。数年こんなところで生活したら、本当に  
毎夜涙に暮れ、心も体も疲弊し、どんなに屈強な兵士で

も体は衰え、髪は真っ白になったことでしょう。もし、  
我が息子がこんなところにいると思ったら母親として  
は耐えられない思いがします。兵士たちもどんなに家  
に帰りたかったことでしょう。

「一国の軍隊を指揮する司令官が書いたとしては、い  
かにも女々しいように見えますが、この詩を通して、兵  
士たちを戦場に駆り立てておいて政争に明け暮れる政  
府の無為無策を風論しているとも言えます。戦争の虚  
しさを感じますね」と植田先生。振り返れば、有史以来、  
戦争が絶えたことはありませんね。本当に人間はどう  
して互いに争い、こんな愚かなことを繰り返すのでし  
ょう。ただ最後の一句には、兵士に寄り添う一指揮官と  
しての作者の人柄がしのばれます。

さて、范仲淹と言え、私には忘れられない名言があ  
ります。それは前にも少し触れましたが『岳陽樓記』の  
「先天下之忧而忧，后天下之乐而乐」（天下の憂いに先  
じて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ）の一句です。  
世の指導者たる者、多くの人々の幸せを第一に考える  
べきで、自分の楽しみを優先してはならない、というこ  
とでしょうか。

この言葉に出会ったのが、まだ大学生の二十歳の頃  
でした。知り合った中国人の先生からこの言葉を聞き、  
非常に感銘を受けた私は、当時中国語弁論大会に出場  
するスピーチ原稿のタイトルにこの一節を引用しまし  
た。何度も指導教官に作文を添削してもらい、何度もネ  
イティブの先生と発音練習を繰り返し、内容にもスピー  
チにもかなり自信があったのですが、結果 3 位まで  
に入選しませんでした。入選したのは、中国旅行は楽し  
いというような内容の発表で、その当時はなぜ？と悔  
しく思った記憶があります。

今にして思えば、発音は当時にしてばっちり仕込ん  
だつもりでも、まだまだ未熟であっただろうし、何より  
そんな社会批判めいたことを書いて入選するわけはな  
いことはよく分かります。賞を取るには賞を出す側が  
書いて欲しいことを汲まないといけませんね。とまあ、  
私にはこのような一面があるから、本当のことを言っ  
たり、「義」を通そうとして、為政者の神経を逆撫でし  
て左遷させられた役人たちの気持ちが分かるのかもしれ  
ません。権力と地位と財力を持った存在にとっては、  
どうして？なぜ？と痛いところをついてくる輩はい  
つの時代も煙たがられるのです。



これまで12人の美女を登場させたが、いわゆる才媛という形容が相応しい人物はいなかったと思う。これからは何回かに分けて、天から二物を賜った美女を登場させたい。取り敢えず宋代までの、私が才媛と思う人を紹介したい。生きた年代の古い順に並べると、①蔡琰さいえん=後漢末～三国時代、②上官婉児じょうかんえん じ=初唐、③薛涛せつとう=中唐、④魚玄機ぎょげん き=晩唐、⑤李清照りせいしょう=北宋末～南宋初期、の5人である。その他にもいると思うが、私が知っているのは以上なのでご了承ください。

まず蔡琰から始めよう。彼女は、後漢(AD25～220年)末の177年頃河南省の省都・開封市の東南にある「杞県」で生まれた。「杞」という字は、木の名前で①くこ②かわやなぎなどと漢和辞典に出ているが、もう一つ大昔の夏王朝の子孫が封じられたという周代の国の名前でもある。「杞憂」と言えば、すぐお分かりと思う。この国の人々が「天地が崩れたらどうしよう」と心配した故事から来ている諺だ。ついでながら出所は『列子』天瑞篇の〈杞人憂天〉からである。彼女の字は昭姫であるが、後に文姫と書かれるようになった。つまり「昭」という漢字を忌避したのである。漢が滅んで三国時代になったが、それを一つにまとめ上げたのが司馬氏による晋(西晋:265～316年)であった。晋朝は司馬炎(武帝)が初代皇帝であるが、蜀を倒し三国時代を終わらせ晋朝の礎を創ったのは司馬昭(太祖)であったため、彼女は「昭」の字を避け文姫としたのである。

さて文姫に関する本には彼女のことを、「中国史上



卓文君像 陝西省藍田県蔡王村、蔡文姫記念館

(太平洋電脳網より)

著名な詩人であり音楽家」と紹介している。彼女は波瀾万丈の人生を送ったが、そのことを述べる前に父の蔡邕さいいよを紹介しておきたい。蔡邕(132?～192年)は、後漢末期の政治家・文学者・書家であり音律に精通するなど当代一流の人物であった。しかし時代に恵まれず世情不安の中で一時権勢を奮った董卓とうたくの死に関連して王允により投獄され、そして獄死したのである。彼には子供は蔡文姫一人だけだった。聡明な子だけに随分と可愛がったことであろう。以前、父の弾いた琴の弦が切れた時、隣の部屋で聴いていた文姫はすぐ第2弦と指摘したとの逸話を紹介したが、父と同様に音感に優れていた。

それではここから彼女の生涯を振り返ってみよう。彼女は生涯三度嫁いでいるが、いずれも平穏な結婚生活は送れなかった。最初の結婚は、衛仲道という人物である。仲道は「出色的士子」と書かれているから優れた知識人であったと思われる。しかし一年もしないうちに咯血して亡くなった。肺病であろうか。二人の間には子供は出来ず文姫は実家に戻るようになった。この辺りは卓文君に似ている。子供が一人でもいたら実家に帰ることもなく異なった人生を送ったであろう。実家に戻った後、静かな日々を送ろうと思っても後漢末期の世情はそうさせてくれなかった。前述の董卓は甘肅省・定西市の人であるが、次第に力を付け後漢第13代皇帝の帝弁を廃し、獻帝(第14代皇帝)を擁立するなど権勢を誇った。しかし192年に養子にした呂布と王允により誅殺され宮中は混乱を極めた。その中で匈奴が入り込み多くの婦人を連れ去ったが、文姫も匈奴の騎兵隊に拉致されてしまった。その時23歳であった彼女は左賢王の側室として嫁がされた。左賢王とは匈奴の君主である単于ぜんうに次ぐ地位である。単于の下には左賢王と右賢王が置かれたが左賢王は、単于の跡継ぎが就く地位で、いわば皇太子である。匈奴は彼女の氏素性を知っていたのか否か分からないがそれなりの処遇をしたのではないだろうか。彼女は匈奴の地に12年間留め置かれたが、その期間の中で胡人の言語や「胡笳」という楽器をマスターしたようだ。そして二人の子を儲け

たが、彼女は辺境の地に拉致され、しかも胡人と蔑んでいた匈奴に側室として入るといふ屈辱に耐え偲んだと書かれている。二人の子をなすうちに左賢王と文姫の気持ちはぐっと近づくが、故国のこと故郷のことを忘れることは決してなかったという。そしてついに12年後待ち望んだ故国の地を踏むことが出来たのである。

後漢が220年に滅びた後、三国時代に入るが三国の中の〈魏〉の基礎を造った曹操は若いころ文姫の父・蔡邕に親しく接してもらい勉強も教わったことを忘れていなかった。しばらく時が流れたが、文姫が拉致されたことを知った曹操は蔡家に後継ぎがないことを惜しみ救出に乗り出した。使者に黄金千両、白玉一双などを持たせ交渉の末無事に彼女を取り戻すことに成功したのである。しかし事はそう簡単ではない。我が腹を痛めて生んだ二人の子供とは別れなければならないのだ。そしてついに別れの日が来た。その時の状況を〈関山重重、大漠遥遥〉と手元の本には書いてある。意識すると、〈置かれた状況はとても厳しく、この先の道は険しく遠い〉との意味か。そして匈奴の地を離れる時、永遠の別れに彼女と二人の子、そして左賢王は抱き合って泣き崩れたという。蔡文姫の著作には、「胡笳十八拍」と「悲憤詩」の二首が伝わっている。「胡笳十八拍」は、匈奴の地に拉致されてから二人の子供を置いて漢に戻った運命を18章に分けて歌に詠んだもので、胡笳という楽器に合わせ琴を弾きながら歌うそうである。一説には「胡笳十八拍」は後世の詩人が文姫に仮託して作ったものとも言われている。なお「胡笳十八拍」の楽曲は現代まで伝わり、中国十大古典名曲の一つとして大きな評価を得ているようだ。もう一つの「悲憤詩」は、二人の子供との別れのシーンを詠んだものである。その一節には「児すすみて我が頸をいだし、母に問うにいづくにか之かと欲すと」（訳：我が子が私の首に抱き着いてきて、お母さんどこに行っちゃうの？と聞く）子との別れは、いつの時代でも何処でも涙を誘うものである。

故郷に帰った文姫は、曹操の配慮で同郷出身の屯田都尉の董祀に嫁いだ。三度目の結婚である。時に208年、彼女は35歳であった。曹操が勧めた男であるだけに年は文姫より若かったが音律にも通曉し中々の人物であったようだ。彼女は戦乱が続く中で

これまで父を失い、最初の結婚の相手を病気で失い、匈奴の地で肉親とも別れ、挫折や心の深い傷を負ってきた。身内も頼る人もいない中でこの男と結婚するしかなかったのではなかろうか。一方の董祀はといえば手元の本には彼の心中をこのように書いている。〈自分より年上でしかも二度も結婚しており二人まで胡人との間に子をなし、このような中年の女性と結婚させられるとは思ってもよらなかった〉と、気の進まない結婚であったが、しかし曹操の話とあれば如何ともしがたいという所であろう。

結婚生活は、お互いに心を開かないまま続いた。ところが僅か一年後に董祀は罪を犯し曹操から死罪を言い渡されたのである。これを聞いた文姫は取るものも取り敢えず髪を振り乱し、裸足のまま曹操の館に向かった。文姫はこれ以上身内を失うのは耐えられなかったのである。ちょうどその日は大勢の賓客を呼んで大宴会が行われていた。彼女は宴会場に堂々と入り込み、頭を深く下げた後叫ぶようにして夫を取り戻すべく訴えた。その言葉が皆の心を打った。曹操も昔日の蔡邕の厚情を思い、董祀の死刑を取りやめさせた。出獄してから董祀は、文姫の決死の救出に深く恩義を感じて、心を入れ替えた。以降二人は仲良く過ごし天命を全うしたようである。

彼女に関して書きたいことはまだまだあるが、紙幅の関係で2点だけ紹介して本稿を終わりとしたい。一つは、中国の幼児教育の本といえる「三字経」に彼女のことが取り上げてあることだ。次のように三文字ずつ区切って覚えやすく書いてある。

『蔡文姫、能辨琴、謝道韞、能詠吟。彼女子、且聰敏、爾男子、当自警。』（意識：女性にも聡明な人がいる。男子たるものこのような才女に見劣りしないよう勉学に励むべし）もう一つは、彼女の記念硬貨についてである。中国人民銀行は歴史上の人物を以前より記念硬貨に刻印して顕彰している。彼女は1992年に、王昭君や鄭成功らと共に5元銀貨として発行されている。

今はコロナが収まらず中国には行けないが、いずれ中国に行った時には是非とも見てみたい。果たしてどこに行けば見ることが出来るのであろうか。（続く）



蔡文姫 5元銀貨  
(百度百科より)

## 中部崛起、中原崛起と「中原経済区」(続き)

文と写真=村上直樹

前回は「中部<sup>くつき</sup>崛起」から「中原崛起」へ、さらに「中原経済区」へと、中原に対する関心が徐々に高まってきた過程を辿った。「中原経済区」が正式に設立されたことを意味する『中原経済区規劃(2012～2020年)』(以下、単に『規劃』)が国家發展改革委員会より發布されたのは2012年12月2日である。手続きとしてはそれに先立つ11月17日に國務院の承認を得ている。北京で開催されていた中国共産党第十八次全国代表大会(「十八大」)が閉幕してから3日後のことである(開幕は11月8日)。この十八大では、それまでの胡錦濤・温家宝体制から、現在も続く習近平・李克強体制へと指導部が交代した。そして、よく知られているように、このころには中国経済は1970年代末の改革開放以来基本的に続けてきた超高度成長が終焉を迎えつつあり、新しい時代に対応した構造変化が求められるようになっていた。

『規劃』は「まえがき」につづく12章からなる。その目次は表に掲げたとおりである。

昨年2020年は、2016年3月に策定された国全体としての5か年計画、第13期五か年規劃(2016～2020年)の目標年であるとともに『規劃』策定9年目の目標年でもあった。

河南省では地元紙『大河報』が、『規劃』が正式発表される以前から「あなたが力をくれれば、わたしは力を尽くす」(“你給力、我發力”)と題して、『規劃』の

### 『中原経済区規劃(2012～2020年)』の目次

前言(まえがき)
第一章 發展基礎(發展の基礎)
第二章 総体要求(全体的要求)
第三章 空間布局(空間配置)
第四章 推進新型農業現代化(新型農業近代化の推進)
第五章 加快新型工業化進程(新型工業化過程の加速)
第六章 加快推進新型城鎮化(新型都市化推進の加速)
第七章 建設現代化基礎設施(近代化インフラ施設の建設)
第八章 加強生態環境保護和資源節約利用(生態環境保護と資源の節約利用の強化)
第九章 建設和諧中原(調和のとれた中原の建設)
第十章 促進区域聯動發展和開放合作(区域の連動した發展と開放的提携の促進)
第十一章 創新“三化”協調發展体制機制(“三化”協調發展体制メカニズムのイノベーション)
第十二章 規劃實施保障(計画実施の保障)

解説特集記事を載せている。また、関連した催しとして、たとえば、12月12日には鄭州の「興亜建国飯店」で河南大学・中原發展研究院が主催する「三化協調發展与中原經濟区建設協同創新研究中心揭牌儀式暨航空經濟發展論壇」(「三化協調發展と中原經濟区建設の協同イノベーションセンター開設式および航空經濟發展フォーラム」)が開かれ、私も實際覗いてみた。登壇したのは、河南省の副省長・張大衛氏、カナダ・カールトン大学教授の王艷靈氏のほか、世界最大のIT機器製造請負企業である「富士康」(英語名: Foxconn)鄭州工場の責任者・谷宇氏らであった。

なお、フォーラムの題名にある「三化協調發展」とは、『規劃』の目次の第4～6章にある「農業近代化」、「工業化」、「城鎮(都市)化」の3つの「化」を協調して發展させるという意味である。また、航空經濟發展とは『規劃』と併せて國務院がその建設を承認した「鄭州航空港經濟綜合實驗区」を通じた經濟發展のことを指す。

「富士康」と言えば、日本ではその親会社である台湾の「鴻海精密工業」が2016年に「シャープ株式会社」を買収したことで知られる。また、2010年には5月末までにその深圳工場で従業員11人が飛び降り自殺を図り、内9人が亡くなった(『日本經濟新聞』電子版、2010年5月26日)ことで、その労働環境が国内外から批判を浴びた。2013年に公開され、第66回カンヌ国際映画祭脚本賞を受賞した賈樟柯監督の『天注定』(邦題:罪の手ざわり)(主な出演は、賈作品に欠かせない趙涛、兄弟そろって著名な姜武一兄は姜文、映画・TVドラマで大活躍中の張嘉譯—現在の芸名は張嘉益ら)はこの事件を重要なモチーフとしている。もっとも、深圳工場は日本人の想像を絶する巨大工場(従業員数45万人!)であり、自殺率で見ると中国の平均を下回っていたそうではあるが(野口悠紀雄『中国が世界を攪乱する』東洋經濟新報社、2020年、141頁)。

一方、当日のフォーラムにおいては、中原經濟区を構成する自治体の関係者から富士康の進出による地元經濟に対する貢獻を期待する声が多く聞かれた。それに対して、同社の責任者である谷宇氏は「そんなに期待されても」と、やや戸惑いの表情を見せていた



のが印象的であった。河南省に工場を建設するのは、東部沿海部では賃金上昇しており、比較して河南省は賃金が安いからといったような、経営上の理由によるということであろう。

富士康が河南省（鄭州市）にはじめて工場を建てたのは 2010 年である（現在は鄭州市内に 3 か所）。以後、済源、鶴壁、濮陽、蘭考に進出している。とくに鄭州市サイエンス・パークにある工場は米アップル社製スマホの世界最大の組み立て工場であり、一日 50 万台の iPhone を生産でき、従業員数は 30 万人以上を擁する。

河南省全体にとって対外貿易面で富士康の貢献は著しい。河南省の輸出入総額に占める富士康 1 社による輸出入額の比率は最も高い時には 60%以上に達し、近年はやや下がってはいるものの 50%内外と極めて高い。2020 年の中国における輸出額のトップ 100 社を見ると第 1 位が鄭州の富士康一子会社の形をとっており正式名称は「鴻富錦精密電子（鄭州）有限公司」、である。なお、深圳工場など富士康関係は計 7 社が含まれており、中国全体にとっても富士康の輸出面での存在は非常に大きい。

また、雇用についても河南省内の全工場をあわせると、従業員数は 40 万人以上と言われる。写真は 2014 年 11 月 3 日に鄭州駅前広場で見つけた富士康の招聘諮詢（採用照会所）である。この時は担当者も暇そうにしていたが、富士康が進出したおかげで、以前は遠く省外で出稼ぎをしていた農村住民が地元で働き口を見つけることができるようになったのである。

実は、近年、富士康が中国から撤退するかもしれないという情報が絶えない（2019 年 6 月 15 日付『天蠟財經』）。もし、河南省の工場が閉じられると、輸出入・雇用が大きく減少し、地元経済が受ける打撃は甚大

である。さらに、従業員の住居が無くなると不動産価格が下落するおそれがある。また、輸出入には空路が利用されているため、空港が主導する経済発展構想も実現困難となるかもしれない。富士康の工場に依存する関連（下請け）企業も経営が立ち行かなくなってしまうであろう。

ごく最近も、富士康がベトナムに投資して工場を建設し、iPad と MacBook 等の生産ラインを移す計画との報道がある（2021 年 3 月 21 日付『天蠟財經』）。富士康がベトナムなど東南アジアあるいは南アジアへ工場を移転する理由は、中国における人件費等の生産コストが高まっていること、最大の顧客であるアップル社がそうした国々の市場を重視しつつあること、さらに、ベトナムなどが優遇政策を通じて工場誘致に積極的であることなどがあげられている。

さて、だいぶ遠回りをしてしまったが、ここからは『規劃』の内容を見ることにしたい。「まえがき」はすでに前回（4 月号）で紹介したが、あらためて、冒頭に「中原经济区是以全国主体功能区規劃明確的重点開發区域為基礎、中原城市群為支撐、」（「中原经济区は全国主要機能区計画が明確にしている重点開發区域を基礎とし、中原城市群を支柱として、）」とある。

前半部分の『全国主体功能区規劃』と「重点開發区域」については、前回触れたように、「中原经济区」の正式発足に先立つ 2 年前の 2010 年 12 月に出された総合的な国土開発計画において優先開發区域、重点開發区域、開發制限区域、開發禁止区域という 4 つの地域区分のうち、中原经济区が他の 17 地域と共に、重点的に工業化・都市化を推進する 2 番目の地域区分に指定されたことを指す。

では後半部分に見える「中原城市群」とは何か。まず、城市群（都市群）とは一般に、1 つ、あるいは少数の大都市を中心として、行政区域（省）にこだわらない地理的に隣接する複数の都市を一括りにしたもので、各都市が相互に連携して地域全体の発展に貢献することが期待されている。明確に中原の名が冠せられた城市群が生まれたのは、2003 年 8 月に河南省共産党委員会と河南省政府が提出した『河南省全面建設小康社会規劃綱要』においてである。そこではいずれも河南省に属する、鄭州、開封、洛陽、平頂山、新郷、焦作、許昌、漯河、済源の 9 市が中原城市群を構成すると規定され、それは河南省における経済発



鄭州駅前の富士康招聘諮詢（2014 年 11 月）

展の中核であり、「中原崛起」の実現を担う地位にあるとされた。

『規劃』ではこの中原城市群は中原経済区に含まれる中核的な地域と位置づけられている。実は2016年12月国家発展改革委員会より発布された『中原城市群發展規劃』において中原城市群の範囲は先の河南省内9市から「中原経済区」を構成する30市全てへと拡大された。これにより中原城市群と中原経済区が事実上合体したと言えるが、いずれにせよ、これは後の話である(ただし、中原経済区に飛び地として参加していた3つの区・県は中原城市群には含まれていない)。

中国全体では他にどのような城市群があるのか、気になったので調べてみた。2018年11月18日に共産党中央と国務院から合同で発出された『關於建立更加有効的区域協調發展新機制的意見』(『さらに有効な区域協調發展の新メカニズムを築くことに関する意見』)によると、北京・天津を中心都市とした京津冀城市群、上海を中心とした長三角城市群、香港・澳門(マカオ)・広州・深圳を中心とした粵港澳大湾区、さらに、重慶・成都を中心とした成渝城市群、武漢を中心とした長江中遊(流)城市群、西安を中心とした関中平原城市群の6つが挙げられている(「冀」は河北省、「粵」は広東省、「渝」は重慶市の略称)。

話は戻って2012年の『規劃』制定時点の中原城市群は2003年に決められた9市から成るものであった。それ以前にも中原城市群という言葉は存在したが、そこにどの市が含まれているかは確定していなかったようである。たとえば、90年代前半に出された河南省のある公文書では9市の内の鄭州、開封、洛陽、新郷、焦作、許昌の6市をもって中原城市群と称している。

この6市の中で、鄭州、開封、洛陽は中国八大古都に含まれていることもあって、日本人(外国人)にも馴染み深いのに対して、あとの3市については、たとえば、焦作市はインターネットの旅行サイトによると、国家5A級景勝地・雲台山がある、太極拳のふるさとであることなどはわかるものの、あまり知られていないように思う。

その焦作市に、私は2016年8月27日から30日にかけて第11期豫商大会に参加するため訪れた(「豫商大会」については昨年7月号の「雑感」をご覧ください)。写真はホテル近くの東方紅広場の南側に立つ人民英雄記念塔である。よく見ると「人民英雄永垂不



焦作市の人民英雄記念塔 (2016年8月)

朽)(「人民の英雄は永遠に朽ちることがない)」という毛沢東による題詞が書かれている。この塔は5角柱であり、その5面全てが同じ題詞である。

もともとは抗日戦争の勝利を記念して1946年1月20日に「抗日烈士記念碑」が別の場所に建てられた。この碑の5つ面には、晋(山西省)冀魯(山東省)豫軍区司令員・劉伯承、同軍区政治委員・鄧小平ほか、3人による別々の題詞が書かれていた。

その後の国共内戦により、もとの記念碑は破壊されてしまったが、新中国成立後の1959年には現在の場所に復元再建され、1970年には記念塔として現在の形状に建て替えられた。その際、5面全てが同じ毛沢東の題詞に変えられたのである。なお、この題詞は北京の天安門広場に立つ人民英雄記念碑と同一である。

さらに興味深いことには、1978年の十一期三中全会以後、もともとの記念碑の復元が決定された。1989年時点で存命だった鄧小平ら3人には、あらためて題詞を書いてもらい、すでに亡くなっていた劉伯承ら2人については、手書きの遺稿から文字を選んで組み合わせた記念碑は1993年12月26日に完成し、市の烈士陵园中心に立っているそうである(2020年9月2日付『焦作日報』による)。

なお、写真には記念塔の左後ろに「焦煤集団」と書かれた大きなビルが写っている。これは「焦作煤業(集団)有限責任公司」の本社である。焦作は煤炭(石炭)採掘で全国に知られ、その歴史は120年以上に亘る。現在でも石炭は焦作市の重要な産業であり、この会社はその中核を担っている。

気が付くと「まえがき」の中原城市群でつまずいたまま、今回も紙幅が(力も?)尽きてしまった。『規劃』の紹介は次回も続けることにしたい。



## 「秦皇島」をご存知ですか？……(4)

吉光 清

“秦皇島”は現在、何処に在るのだろうか？という疑問とともに、「秦皇求仙入海处」伝説を知って二つの疑問が湧いた。「徐福が始皇帝の命令で不老不死の仙薬を求めて出航し日本に辿り着いた」と教えられてきたのに、「入海处伝説」の中では仙薬を求めて「盧生」が出航したとされている、どうなっているのだろうか？また、「始皇帝が“秦皇島”で出航を見送った」のは本当だろうか、記録から裏付けられるのだろうか？」ということであった。日本に帰ってから、これら確かめたいという気持ちが強くなり、先ず、徐福伝説の主人公「徐福」と「入海处伝説」に現れた「盧生」について確かめることにした。

### ■『史記』に記録された「徐福」と「盧生」

図らずも、この年齢になってから『史記』解説書のページを捲ることになった。『史記』は言わずもがな、前漢時代に、「司馬遷」によって書かれた歴史書である。その中の「秦始皇本紀」には、後に「始皇帝」となる「嬴政」が秦王に即位したBC259年から、BC210年の巡幸中に没した後日談まで、1年毎に事績や起きた事件が記されてある。「徐福」或いは「盧生」についての記述がみられるのは以下の4箇所である(仮名遣い等は解説書のまま、「始皇帝」は「始皇」、「徐福」は「徐市(じょふつ)」と記載されている)。《始皇28年(BC219年)》……齊人の徐市らが上書していった、「海中に三神山があって(中略)、どうぞ、齋戒沐浴して身を潔め、穢れのない童男童女とともに、仙人を得ることをおゆるしねがいます」と。そ



『史記』を著した司馬遷(ウィキペディアより)

こで徐福をして、童男童女数千人を出発させ、海に乗り出させて仙人を求めさせた。

《始皇32年(BC215年)》……始皇は河北の碣石山に行幸し、燕人の盧生をして仙人の羨門高をさがさせた。また、碣石門に碑文を刻んだ。(中略)。盧生は海に浮かんでから還り、(中略)奏上していうには、「秦を滅ぼすものは胡であります」と。そこで始皇は將軍蒙恬に命じて兵三十万を発して北の方胡人を討たしめ、蒙古の北河の南の地を攻略させた。

《始皇35年(BC212年)》……盧生が始皇に説いていった。「臣らは神草や不死の奇薬や、仙人をさがし求めたが、どうしても見つかりません。(中略)、陛下がおいで遊ばず宮殿を人に知られないようにしてくださいませ。そうやって初めて、不死の薬を手に入れることができましょう」と。(中略)、侯生・盧生が相談していった。「始皇の人となりは天性剛情暴戾で、(中略)、その権勢を食うことがこのようでは、とうてい仙薬を求め得ることなどはできない」と。かくして侯生と盧生は逃げ去ってしまった。始皇は(中略)大いに怒っていった。「わしは前に天下の書籍を没収し、(中略)徐市らは巨万の費用を費やただけで、ついに不死の奇薬を得ることができなかつたとのことだ。(中略)、学者どもの咸陽に或る者について、人を使ってしらせさせてみると、或いは奇怪なことを言って人民を惑わしているとのことだ」と。

《始皇37年(BC210年)》……北の方琅邪に至る。方士徐市らは海中にはいつて神薬を求めたが数年たっても入手できず、使った費用も多大であったので、譴責されるのを恐れ詐って奏上した、「蓬萊山の薬は入手できます。しかし、いつも大鮫に苦しめられるために、蓬萊山までいたることができません。どうぞ、弓の名手を同道させて下さい。大鮫が姿を見せたら、石弓を連射してこれを射とめましょう」と。(後略)。

### ■徐福も“秦皇島”から出航した？

「徐福」についての記述はBC219年、BC212年、BC210年に見られるが、その年に起こった出来事として読み取れるのはBC219年のみである。その後の記述は「ついに～できなかつた」「数年たっても～入手でき

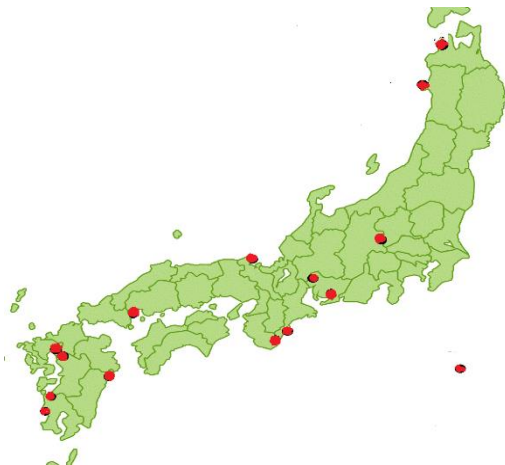
ず」のように書かれ、過去の事実が述べられていると読むのが妥当であろう。何よりも BC212 年に「候生と盧生」が責任追及を恐れて逃亡してしまった後で、(何の成果も無いまま帰ったら、無事で済むはずもない大罪を犯した筈の) 徐福が始皇帝に奏上し、改めて再度の出航を許された筈は無いであろう。BC210 年に記された奏上の内容は、出航の命を下した後の巡幸の折、始皇帝から「なぜ仙薬を未だ入手出来ていないのか」(船団は未だ出航していなかった?) を詰問された時のものではなかったろうか? その弁解が、「始皇帝が連発できる石弓を手にして、自ら海に乗り出した (BC210 年)」ことに関連して記載されたと理解できるのではないだろうか?

一方、盧生は BC215 年に帰ったことが記録されており、偽の仙書を献上して罪を逃れた件も『入海处伝説』と一致している(伝説は『史記』を下敷きにしたものかも知れないが)。

したがって、『史記』からは「徐福」と「盧生」の出航は別々に行われたことは明白であるが、それぞれの出航地は明記されていない。ウィキペディアの『徐福』の項では、「出航地については、現在の山東省から浙江省にかけて諸説あるが、紀元前 219 年の第 1 回出航は河北省秦皇島市、第 2 回の紀元前 210 年の出航では浙江省寧波市慈溪市が有力とされる。」と書かれている。しかし、BC219 年の徐福の出航が秦皇島からだったとすれば、「入海处伝説」の中でも触れられて然るべきで、謎は益々深まってしまった。

### ■徐福伝説と上陸地の伝承

「徐福の船団が日本に着いたらしい」という最大の根拠は「史記列伝－淮南衡公」の中に求められてきた。漢の朝廷に謀反を企てる淮南王を必死で思い留



伝承が残る地域 (ウィキペディアに基づき作成)

まらせようとした「伍被」が始皇帝の愚かさを語る部分であり、船団での出航前にも徐福が蓬萊山に渡ったとも語られている。また、出航地、出航時期には触れられていない。「本紀」の執筆において、公平な記録を心掛けた司馬遷も、こうした個人の会話内容に対しては、そのまま記録に残したものであろう。

「多数の童男童女と技術者、財宝、五穀の種を持って上陸し、いろいろな事績を残し、それらが地名の由来や寺社の縁起になった」との徐福伝説はウィキペディアによれば、青森県から鹿児島県の日本海沿い、太平洋側の和歌山県や愛知県、更には東京都八丈町や長野県にも残っているという。(左下の図参照)。筆者も車で有明海沿岸をドライブしていて、いきなり「浮盃－『徐福』上陸の地」という案内標識に出会い面食らったことがある。また、長崎高速道の「金立 PA」に駐車し、「徐福長寿館」を訪れたこともあったが、「不老不死」が訛ったとされる「フロフキ」(地元の呼び方)という植物、徐福を祀ってきたという「金立神社」の由来や「お辰観音」の言い伝えなどが展示され、上陸が「さもありません」と思わされた。

こうした伝承や遺跡が各地に残っていることが直ちに信憑性を疑わせる訳ではない。平安時代の遣唐使の例を引くまでもなく、徐福の船団が漂流し、一部が各地に漂着しても不思議は無い。また、船団の主力が九州西部に到達し、そこを本拠としながら(吉野ヶ里と関わりを持ち?)、さらに黒潮に乗って太平洋岸を渉猟し続けたと考えている人々もいる。ただし、日本に文字の無かった時代に、言語の異なる人々がやって来た訳で、渡来人や留学僧などにより伝えられた『史記』の情報が併せられなければ、徐福渡来の伝承自体が形を成し得なかったことは明白である。中国や朝鮮半島にも徐福上陸の伝承があり、その多くは「史記列伝」の記述に、後世、辻褄を合わせたものと考えられている。遙かな時間の彼方の出来事であり、現在において直接的な証拠を求めようも無く、ロマン溢れる古代史のテーマの一つとなっている。

此処までで、今回の紙幅が尽きてしまった。「始皇帝は秦皇島に来たのか?」「秦皇島」はどこに在るのか?」については、次回で考えてみたい。(続く)

### ●資料:

- 吉田賢抗:『新釈漢文大系、史記本紀2』、明治書院、1973.
- 吉川忠夫:『秦の始皇帝』、講談社学術文庫、2002.



## 中国の面白い神話物語・伝奇物語(6)

### 顧 傑

お久しぶりです。

前回の「聶隱娘」の謎解きは如何でしたか？ 無理やり私の妄想に付き合ってもらってしまいました。でも、荒唐無稽に見えるお話でも、角度を変えてみると、何か読み取れるものがあるというところを見ていただきたかったのです。

代りに今回は、素直な伝奇物語をご紹介しますと思います。快意恩仇（注：仇も恩も意のまま、爽快感のある感じを表すもの）なストーリー「義侠」（注：侠とは中国で昔、身を顧みず弱い者を助ける人の呼称。ここでは義のある俠士を指す）というお話です。

「義侠」は、唐の作家「皇甫氏」の作品「原化記」の中にあります。「原化記」は散逸が著しく、何編かしか伝わっていませんが、このお話は、宋朝の「太平広記」や明朝の「剣侠伝」などにも収録されています。

時は唐・代宗の時代。当時の開封府（注：中国河南省東部の町）の長官を務める李勉（中国読み：lǐ miǎn）は、清正廉明（清廉潔白で公正）なので、民に愛されていた。

ある日、下役から「ある賊を捉えました。どうやらあちこちで盗みを働いていた大物らしいです」との報告を受けた。李勉は半信半疑の中、手下から出された証拠などを善く善く吟味して、さまざまな調査を行った末、この人物の無実を証明してやった。容疑者を牢獄から出したその日、この男の故郷から「福」という雇人頭が迎えに来た。「もしかしたら罪を得て、処刑されたかもしれない」と心配していたようだが、無事に無実を証明され釈放されたと知った福は大いに喜んで、李勉に何度も礼を言いながらこの男と故郷に帰っていった。

時はさらに経ち、唐は徳宗の時代になった。一代の名相（注：有名な宰相）となった李勉は、皇帝の前でも正々堂々と真実を語り、皇帝に愛されていたが、それに不満を持ち、妬む者も多くいて、折

あらば李勉を失脚させようと狙っていた。ある時その一味は、些細なことに難癖をつけ、李勉を辞任に追い込んだ。

二人の皇帝に仕えて、力を尽くした李勉は疲れを感じて、地元に戻り余生を過ごそうと一人で帰郷の途に就いた。

ある町にたどり着いて、市場で商品を物色していると、後ろから「李大人！（注：李長官の意）」と呼ばれ、振り返ると立派な身なりの小太りの男が、手を挙げて呼び掛けているのが見えた。

「李大人！ お久しぶりです」

その男は急ぎ足で李勉の近くまで来て、深くお辞儀をしていった：

「覚えておられますか？ 私は昔、賊と間違えられ濡れ衣を着せられた男です！」

それを聞いて、李勉が昔を思い返すと、確かにやや太って、立派になったが、昔のあの男に似ているような感じがする。

「李大人のおかげでこうして生きていられます。ただいまこの町で商売をしており、すこしは財産も出来ました。ぜひわたくしのうちにご逗留ください。ほんの少しでも、私にあの時のご恩返しをさせてください」

ちょうど李勉は、路費（注：旅行するためのお金）が殆ど底をついていたので、数日ならと心に決めて、男の家に泊めてもらうことにした。

男の家は、天子がいる首都の家々とは比べ物にはならないが、この町では一二を争う立派な家だった。そして男は多少、書を読んだこともあるので、李勉も毎日酒を飲んだり、文学などの話をしたりと、楽しい時を過ごした。しかし時間は速く流れ、十日間も過ぎてしまった。そろそろ帰ろうと思って男にその旨の挨拶をしたら、

「早すぎます！ 私はまだご恩を返し切れていないですよ」と男が言って、

「あと三日！ あと三日あったらお礼もたっぷり用意できます。あと三日いてください」

断っても断り切れないと思った李勉は、しぶしぶ同意し、最終日に礼を断ればいいと思い、さらに三日間を過ごすことにした。

そして二日目の夜。

太陽は沈み、荷物の整理をした李勉がそろそろ休もうと思ったところ、急に激しく扉を叩く音がしてびっくりした。

扉を開けると、そこには恐怖に顔をひきつらせた雇人頭・福が立っていて、慌てて告げた。

「李大人！ 早く逃げてください！」

福から理由を聞くと、李勉も冷汗が止まらなくなり、無我夢中で逃げ出した。月も雲に隠れて真っ暗な、人気のない夜道を走ったが、どうも後ろから誰かがつけてくるような気がした。怖くて振り返ることも出来ず、李勉はただひたすら走り走って、町から離れたところに民家を見つけ、頼み込んで中に入れてもらい、ようやく一息吐いたのだった。

偶然なことに、この民家の主人は、李勉の以前の同僚だった。安心した李勉は、こんな風に逃げてきた理由を同僚に語り始めた。

どうやら、この三日間、男は悩んでいた、そして妻に相談をした。

「李大人にどう恩返しをすればよいだろう。質のいい布を 2000 匹はどうか？」

「あなた、そんなもので足りませんか？ 李大人はあなたを救ってくださったのでしょうか？ あなたの命は 2000 匹の布だけですか？」

と妻が答えた。

「なら馬はどうだろう。先日外省から良馬 1000 頭を仕入れたが、それを全部差し上げよう」

「馬を、大人はどうやって連れて帰れますか？ それに、馬 1000 頭だけであなたの命が買えるとも思えません」と妻が答えた。

「じゃ、どうしよう…すべての財産を渡しても感謝しきれないよ」

と男が悩んでいると、妻が

「どう感謝しても足りないなら、そのお礼を返すために李大人を殺してしまったらどうですか」と言い出した。

そして男は知り合いから紹介された殺し屋に頼み、李大人を二日目の夜に殺そうとした。李勉は福に救われて逃げたが、李勉が逃げている最中も殺し屋はずっと尾行していて、李勉が安心した時に殺そうとしていたのだった。

李勉が同僚に一部始終を話していたら、屋根で急にミシミシと音がした。

李勉は、自分が殺されるのは仕方がないが、この同僚を死なせてはいけないと思って外に出ようとしたが、同僚に止められた。

「殺し屋はずっと屋根にいたのでしょから、もっと前に李大人を殺すことが出来たでしょうに、それをしなかったということは、李大人の物語を聞いて、自分の間違いがわかって、殺すのをあきらめたかもしれません」

李勉は半信半疑で、一晩中よく眠れなかった。

そして朝、李勉が外に出ようとしたら、扉をたたく音がした。

「李大人」と外から声を潜めて呼ぶ声がした。殺し屋だった。

「大変申し訳ございません。夕べは失礼しました。危うく騙されて賢人を殺すところでした。ご安心ください、福には手を出していません」

と扉の外から詫びを言って、サッサッサと殺し屋は消えていった。

李勉が扉を開けると、外には紅色の布に詰められた荷物があつた。李勉は同僚を呼び、荷物を開けたら、中には男とその妻の首が入っていた。

同僚は感嘆し、

「幸いなことに、この殺し屋は仕事のルールを守らなかったな」

と言ったが、李勉は首を振り、きっぱりと言った。

「違うと思う。この殺し屋は、まさに人としての一線を守ったから、私は救われたのだ」

~~~~~

お話はここで終わります。ひどい話ではありませんが、実は歴史上に似たような話はよくあります。

私ならどうするだろう。この物語を知った際に考えましたが、未だに答えを出せません。

皆さまはどう思われますか？



## ヨーロッパの先住民・ケルト族 (2)

和田 宏

### ■ノルマンディ公のイギリス征服

1066年イギリスを征服したノルマンディ公ウィリアム1世(1027~1087)は、フランスのノルマンディ地方を治めていたギョーム2世のことである。現在のイギリス王室の開祖で、エリザベス2世まで血が繋がっている。彼はフランス語を話していた。また、ウィリアム1世の玄孫で、第3次十字軍で勇名を馳せたリチャード1世(Lion-Hearted King 1157~1199)も、フランス語を使っており、離島の方言に過ぎなかった英語は話せなかった。リチャード1世は、アーサー王が使った剣・エクスカリバーを使って戦ったとうそぶいている。本人が作詞作曲したと伝えられるフランス語の歌“囚われの人は”と言う哀しい曲のCDを、私は持っている。

ウェールズは、13世紀にプリンス・オブ・ウェールズと称する公国が出来たが、イングランドとは概ね友好的な関係にあり、今では皇子(次期国王)がこの名前を名乗るようになっている。ウェールズ地区にもケルト系のウェールズ語がある。プリンス・オブ・ウェールズをウェールズ語ではTywysog Cymruと表記する。皇太子は、自らをこう発音するのが習わしである。

現在では、世界の共通語と言われる英語も、その基本が確立されたのは、15~16世紀になってからであり、シェイクスピア(1564.4~1616.4、享年52)が書いた劇の英文は、初期近代英語の実態を知る上での貴重な言語学的資料とされている。シェイクスピアの“ウィンザーの陽気な女房たち”の中に、『Let the sky rain potatoes! Let it thunder to the tune of Green-Sleeves! 空よ! ジャガ芋の雨を降らせよ。グリーン・スリーブズのメロディで雷鳴を轟かせよ!』と言うセリフがある。グリーン・スリーブスという歌が、遅くとも1600年頃イギリスで流行っていたことが判る。清教徒革命の指導者、オリヴァー・クロムウェルを私は好きで、

彼の絵が描かれたティーポットを持っている。クロムウェルは、国王チャールズ1世を1649年、断頭台に送った。イギリスの歴史上、共和制(1649~1658)が敷かれたのは、この時だけである。彼はアイルランドで清教徒(カルヴァン派の一つ)が殺されたという話(実はデマだったのだが)を聞いて激怒し、アイルランドに渡って大勢のアイルランド人を虐殺した。こんな鬼のようなクロムウェルでも、ご機嫌の良い時は、“グリーン・スリーブズ”を鼻歌で歌っていたと、伝記に書いてある。独裁者クロムウェルが飲食店を閉じさせ、一切の娯楽やシェイクスピア劇の上演を禁止した状況は、皮肉にもコロナ拡散を防止する為、ロンドンの飲食店での飲食が禁止された2021年とそっくりだ(笑)。

シェイクスピア劇に出てくる『マクベス』『ダンカン』は、実在のスコットランド王であり、スコットランドの西北にある小さな離島アイオナ島に、ダンカン1世(在位1034~1040)、マクベス(在位1040~1057)と、マルカム1世(在位942~954)らの墓がある。

### ■ジャガ芋飢饉

1845年~1849年に起きたジャガ芋の疫病でアイルランド人が100万人餓死した際、イギリスがアイルランド産のジャガ芋まで全部取り上げてしまった為、200万人のアイルランド人が止む無くアメリカ、カナダ、オーストラリアなどへ渡って行った。その中には、『風と共に去りぬ』(1936年発刊)の著者マーガレット・ミッチェル女史がいる。マーガレット・ミッチェルのお父さんがアイルランド人で、彼らが住んだアメリカのジョージア州アトランタの場所に、故郷の地名の“タラ”を付けた。映画『風と共に去りぬ』(1939年上映)の主人公・スカレット・オハラが思い出す懐かしの場所は、アイルランドのタラの丘である。映画の中に“あの懐かしい故郷、タラに帰ろうー!”と言うセリ

フがある。タラの丘では、歴代のケルト王を選出する儀式が行われた。

宋3姉妹（①宋藹齡＝国民党財政部長の妻。②宋慶齡＝孫文の妻。③宋美齡＝蒋介石の妻。）が一番好きだった映画は『風と共に去りぬ』（日本での公開は1952年）だと言っている。3姉妹はいずれもアメリカのジョージア州に留学の経験がある。英国の軍医をしていたダブリン生まれのアイerland人の父とギリシャ人の母を持つパトリック・ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は日本まで来た。私は八雲の孫・小泉凡に取材したことがある。『ローマの休日』有名なオードリー・ヘップバーンは、アイerland人の父とオランダ人の母の間に1929年生れたが、国籍はイギリスである。この他、マライア・キャリー、グレイス・ケリー、アーサー・コナン・ドイル、アン・サリバン、ブロンテ姉妹、J・F・ケネディの祖父、ロナルド・レーガンらがアイerland系である。アイerland語は、ジャガ芋飢饉で多数の死者が出たのと北米などへの移民でアイerlandの人口は半減し、話す人が激減、殆ど死語となった。ジャガ芋は、もともとは南米からヨーロッパへ移入されたもので小麦と並ぶヨーロッパ人の主食。ジャガ芋に替わって、中南米原産のトウモロコシが増えて来たが、ジャガ芋、トウモロコシは庶民の食べ物であり、小麦粉から作る白いパンが上流階級の食べ物である。

ドイツの考古学者・ハインリッヒ・シュリーマンは、明治維新直前の1865年に、清と日本を訪問した。彼の『シュリーマン旅行記－清国・日本』に



表参道を緑色の服で（2009. 3. 17）

よると、日本人の老若男女が一緒にお風呂に浸かっているのを目撃し、何と清らかな素朴さだろう！と驚いた。日本人は青い色の刺青を身体中にしており、古代ローマ帝国のジュリアス・シーザーがブリテン島に遠征した際、ケルト族のブリトン人が身体に青い刺青をしていたのと同じであるとも述べている。

アイerlandは、ローマン・カソリック信者（旧教）の国で、イギリス国教会（新教の一派）のイギリスと宗教上の相違もある。これに加えて、15世紀、クロムウェルがアイerlandに乗り込んで来て大勢のアイerland人を殺戮したこと、19世紀半ばのジャガ芋飢饉の際、事実上植民地だったアイerland産のジャガ芋をイギリスが全部巻き上げた措置がアイerland人のイギリス人嫌いの原因となっている。アイerland人は緑色が好きなため、アイerlandにキリスト教を広めた聖パトリックの命日、3月17日に緑の服を着て、パレードする。

アイerland人は勇猛果敢な性格であり、貧乏で学歴が低かったので、アメリカに渡ったあと消防士、警察官、軍人になった人が多い。アイerland独立は第一次世界大戦後の1937年12月29日。

### ■アイerland民謡

アイerlandの民謡に、『ロンドンデリーの歌（Londonderry Air）』がある。Airは調べという意味。別名を『ダニーボーイ』と言う。ダニーはダニエルの愛称。メロディー自体は昔からあったが、1910年にフレデリック・ウェザーリーという弁護士が付けた歌詞が徐々に広がり、第一次世界大戦中の1913年頃は、戦争で亡くなった子どもを思う母親の気持ちを代弁していると思われた。戦争に出陣する息子・ダニエルに対して母親が、夫の形見と違って一生懸命育てて来たが戦地に赴き、生きて帰って来ることは難しいかも・・・、どうか私の墓の前に膝まずいて祈り、私を温めて下さい。・・・と言う歌詞が胸打つ。北部アイerlandにある都市のロンドンデリーは、元はデリーと言ったが、イギリスがロンドンをつけてロンドンデリーと言

うようにした。また、『庭の千草』(=The last Rose of Summer夏の最後の薔薇)も、アイルランドの民謡である。1805年にトーマス・ムーアというアイルランドの詩人が詩を書き、その当時の民謡の旋律が付けられたと言われている。これも、友人や家族皆が全員死んでしまい、私も間もなくあとを追います。こんな寂しい世界にどうして私ひとりだけが生き延びていられようか?と言う歌詞になっており、これも悲しい歌詞である。

スコットランドでは13世紀にはウィリアム・ウォレスの独立戦争も起きている。18世紀初めイギリスに吸収合併されたが、今でも独立を党是として掲げる地域政党がある。バグパイプとキルトの

民族衣装がアイデンティティーで、民謡『Auld Lang Syne蛍の光』が有名である。現在では、ケルト族もアングロ・サクソン族も混血が進み、イギリス人とアイルランド人に人種上の差異は全くない。言語も全て同じ英語を使う。ただ、ウェールズとアイルランドに、ケルト語の方言であるウェールズ語やアイルランド語(ゲール語とも言う)を話したり、研究したりしている人達がいる。

アイルランド出身の女声コーラスグループ『ケルティック・ウーマン』というのがあり、DVDやCDが売られている。この合唱団の歌う“The last rose of Summer”や“Londonderry Air”、“Isle of Hope Isle of tears”が私は好きである。

あんなことこんなこと 思い思いに

## みんなの広場

今月は、みんなの広場にお便りを頂けませんでした。それで、今月はこの欄で、中国の笑い話をお届けします。

【中国の笑い話】47 「365夜笑話」より

### 第161話 神童の答え

小さい時から賢くて「神童」といわれる5歳の子供がいた。

それを信じない人が、わざわざその子供の処へ行って訊ねた：『ロメオとジュリエット』の作者は誰だか知っているかい？」

神童は答えた：「僕は知らないけど～～」それを聞くと、その人はすぐさま：「そらご覧！こんな問題が分からないなんて、神童とはいえない」

すると神童は少しも騒がず、少し答めるような口調で答えた：「おじさん、こんな問題を僕に訊くなんてへんだよ。僕くらいの子供は普通、シェイクスピアの作品なんか読まないからね」

### 第162話 同じパターン

先生が、「私の先生」という題の生徒の作文を採点していて言った：「おかしい！丁々、君のこの作文は慶々の作文と一字一句変わらないのは、どうしてなんだ？」

丁々は答えた：「僕と慶々は先生のことを書いたんですよ。先生は独りでしょ！僕たちの書いた作文が異なっていたら、その方がおかしいですよ！」

### 第163話 正直者

春休みが終わった後、先生が春休み中の旅行をテーマに作文を書くようにといった。みんな一所懸命書いていたが、何時も「正直な生徒」と評判の生徒は何も書かなかった。授業が終わった時、先生が何か書くようにと催促すると、生徒は

「お父さんがお金をくれなかったの、春休みはどこへも旅行しませんでした」と書いて提出した。

~~~~~

■皆様の投稿をお待ちしております。

Eメール:t\_taizan@yahoo.co.jp

郵便は:町田市三輪緑山2-18-19寺西方「わんりい」



# 世界で見つける日本のことば

ちょう だい  
趙 迪

趙 迪さんは、中国河南省のご出身で、北京工商大学（機械工学）卒業後、岩手大学で人文社会環境情報システムを学ばれた才媛です。

日本企業に勤務されるご主人のお仕事の関係で、3年間アメリカで生活されました。現在小学 4 年生の

息子さんが誕生後間もなくからのアメリカ暮らしで、子育て中だからこそ出来る様々な体験をされました。そんな趙迪さんがみた世界の中の日本語、お住いの地域の自治会報に寄稿された文章を転載させていただきました。

現在の東京での生活に至るまでの 20 年間、私はずっと生まれ故郷の中国を離れ、海外で生活をしてきました。

学生時代に勉強した英語や日本語の知識をフルに活かして、日本や欧米の言語や習慣など、中国とは異なる文化を経験する機会に恵まれたことはとても幸運だったと感じています。

そうした異なる言葉と異なる生活習慣に触れる中で、私がとても興味深く感じることがあります。

それは、「言葉」が国境を超えて別の国へと侵入し、そこでまたその国の文化に合わせて変容していく様子についてです。

特に近年では、日本文化が海外で高い関心を集めるようになったこともあり、日本の「言葉」が海を超えて世界中へ入り込んでいます。

例えば、私の姪は日本の漫画の大ファンです。彼女との会話は、もちろん中国語でのやり取りなのですが、彼女の話の中で、「今日は KIMONO を着て MANGA 展に行くよ」とか、「どう？ この KIMONO は KAWAII?」、「今日は友達と一緒に TAKOYAKI を食べたよ」のように、KIMONO、TAKOYAKI、MANGA という「言葉」が日本語の発音のまま自然に出てきます。

中国だけでなく、欧米にも日本のアニメに夢中な若者がたくさんいますね。アニメや漫画をテーマにした彼らの会話の中には、「KIMONO」、「MANGA」、「KAWAII」、「OTAKU」、「EMOJI」などなど、日本語の語彙がたくさん登場します。

またこんな経験もありました。

昨年、アメリカ人の友人が家族を連れて来日し、私の家に遊びに来てくれました。

彼のお子さんは日本語など全く話すことはできないにもかかわらず、「となりのトトロ」や「崖の上のポニョ」など、アニメのテーマソングは日本語のままフルコーラスで歌うことができるのです。これにはびっくりしました。

やはり日本語のまま使われる単語「TAKOYAKI」に象徴される「日本料理」は健康的な食事の代名詞になっています。

スパイシーだけど脂っこい中華料理、ハンバーガーやフライドポテトに代表される高カロリーなアメリカの料理に比べて、ヘルシーだということで世界中で好まれるようになってきました。

そうしたトレンドに乗り、食に関する日本の「言葉」もまた世界中へと拡散しています。

中国でも、

TENPURA……………天妇罗  
SUSHI……………寿司  
SHABU-SHABU…呷浦呷浦  
TERIYAKI……………照烧  
TAKOYAKI……………章鱼烧  
RAMEN……………拉面  
UDON……………乌冬面  
NATTO……………纳豆  
NORI……………海藻  
WASABI……………芥末  
BENTO……………便当  
SAKE……………清酒  
MACCHA……………抹茶

などなど。

さすがに中国人は漢字に対する意識が高いので、日本由来の「言葉」でも中国の漢字の発音で表現され

ます。

一方、アメリカでは日本文化独特のニュアンスやその感覚を翻訳して伝えることが難しいので、日本語のまま表現した方がニュアンスが伝わることが多い気がします。

会話の中ですぐに「あ！日本語だ！」と分かるものもありますが、TENPURA、TERIYAKI、NORI、RAMEN、SAKEなどは、日本人が聞いてもすぐにそれだとは分からないでしょう。

アメリカに住んでいた時のこと、アメリカ人の友達と食事に日本レストランに行った時、「Would you like some “ノウウイ”？」と聞かれました。

「え？ “ノウウイ”って何??」とあたふたしましたが、英語の発音の「RI」を日本語の「り」にしたら、謎が解けました。「海苔」だったのです！

また、アメリカではこんなことも。

東洋文化を愛する友人からお誘いがあったのですが、電話で「“カウアウク”に行くよ！」と言われても何のことだかさっぱり…。現地についてはじめて「KARAOKE」だったと分かった次第。

ネイティブスピーカーの発音やイントネーションで発話されると、全く違った単語に聞こえます。

次のような日本の文化に関する語彙も世界中で人気があります。

KABUKI (歌舞伎)、UKIYO-E (浮世絵)、HAIKU (俳句)、BONSAI (盆栽)、ZEN (禅)、SAMURAI (武士)、BUSHIDO (武士道)、NINJA (忍者)、KATANA (刀)、SUMO (相撲)、JUDO (柔道)、KENDO (剣道)、AIKIDO (合気道)、OTAKU (御宅族)、PACHINKO (柏青哥)、TYPHOON (台風) …。

「ZEN」は言葉だけではなくその精神性も世界中の人々から尊敬を集めていますね。

Apple コンピューターの創始者・スティーブ・ジョブズや、著名なドキュメンタリー映画監督のマイケル・ムーアも「ZEN」に親しんでいたことは有名な話ですね。

中国人の立ち位置から言えば、日本の語彙の浸透は現在に始まったことではなく、明治維新以来たくさんさんの日本語が中国に導入されてきました。

「哲学」、「方言」、「世界観」、「客観性」などなど。その他にも、「政治」、「政策」、「政党」、「ガイドライ

ン」などもそうです。「法律」、「裁判所」、「警察」、「人権」、「経済」、「消費」、「産業」、「商業」など、数えだしたらきりがありません。

「これらの言葉が導入されなければ、現在の中国人は話をするができない」と言う人もいるくらいです。

日本で生活をしていると、日本語も外国からの語彙をどんどん取り入れて行くことに驚かされます。特に科学技術や情報技術、ビジネスの分野で顕著ですね。

外国語を取り入れて日本独自の「和製英語」として生み出された語彙としては、次のようなものがポピュラーでしょう。

オートバイ (motorcycle)、ガソリンスタンド [gas station (米)、petrol station (英)]、ゴールデンウィーク(日本独自の用語のため、対応語なし)、トイレ (rest room, bath room)、マンション (condominium : 分譲、apartment : 賃貸)、マイナンバー (アメリカの Social Security Number) などなど。

これらの「言葉」は、ネイティブスピーカーに言っても通じませんのでご注意ください。

夫がアメリカに赴任することになり、家族全員アメリカへ引っ越しをしたときのことで。

当時は子供が生まれたばかりで、ベビーカーのお世話になっていました。

新しい居住地に向けて飛行機に搭乗する際に、客室乗務員さんが客室内でベビーカーを預かってくれたのです。

到着後、乗務員さんに「Could you bring me the BABYCAR please?」とお願いしたところ、彼女の顔には「???」の文字が。すぐに脇から夫が「“BABYCAR”じゃなくて、“STROLLER”って言うんだよ」と助け舟を出してくれて無事解決しましたが…。

そんなドタバタを通して実感したことは、言語や文化は複雑で多様性があり、そしてそれらの文化が混じり合って変化し続けることで、この世界はとてもしカラフルになるということです。

素直な心で誠実に相手に接することで、時には誤解を招くこともあるでしょうが、言葉の壁を乗り越え、異文化を楽しみ、そして人生が豊かになるのではないかと思います。

## 【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

### ♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。\*

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時： 5月18日（火）13：00～14：30  
6月15日（火）10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：1,500円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15名（原則として）
- 申込： ☎042-735-7187（鈴木）  
~~~~~

### ❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

録音機をお持ちの方はご持参ください。

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時： 5月23日（日）10：00～11：30  
第3・4学習室  
6月27日（日）10：00～11：30  
視聴覚室
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授  
現桜美林大学孔子学院講師
- 会費：1,500円（会場費・講師謝礼）
- 定員：20名（原則として）
- 申込： ☎090-1425-0472（寺西）  
Email: ukiuki65jp.jp@yahoo.co.jp  
(有為楠)

#### ■ 5月・6月定例会 三輪センター

- ▼ 5月11日（火）13：30～
- ▼ 6月8日（火）13：30～

#### ■ 'わんりい' 発送 三輪センター

- ▼ 6月号の発送  
5月30日（日）10：00～
- ▼ 7月号の発送  
7月1日（木）10：00～

### ☆ 編集後記 ☆

今年の春は、黄砂の発生が頻繁で、関東地方でも普段は観測機器上で観測されるだけのことが多いのに、今年は、黄砂が車の屋根にうっすらと積もることが数回ありました。

黄砂の発生源に近い北京市では、10年に一度の猛烈な黄砂が襲来し、人々が紗のストールで顔をすっぽりと包んで歩いているのがテレビニュースで見られました。

黄砂は昔から常に発生していますが、最近、大規模なものが多発するのは、ユーラシア大陸中央部の極度な乾燥が原因の一つだと言われます。反対に日本では、ここ数年天気予報で線状降水帯という言葉が聞かれます。長時間同じ場所で豪雨が続き、川の氾濫や、土砂崩れが毎年どこかで局地的に発生します。

極度な乾燥といい、豪雨といい、長い間人類を育ててくれた地球の悲鳴のように聞こえます。地球温暖化阻止対策を急がなくては！

~~~~~

'わんりい' は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■ 問合せ：044-986-4195（寺西）

### 'わんりい' 263号の主な目次

寺子屋・四字成語(42) 朝三暮四 .....	2
「日译诗词」(12) 項羽『垓下の歌』 .....	3
「漢詩の会」だより (47) 范仲淹『秋思』 .....	4
中国の歴史を彩る美人百花 (7) .....	6
「中原」雑感 (12) 『中原経済区』 .....	8
中国の面白い神話伝奇物語 (6) .....	11
秦皇島をご存知ですか (4) .....	13
『ヨーロッパの先住民・ケルト族』 (2) .....	15
『世界における日本のことば』 .....	18
'わんりい'の催し・お知らせ .....	20